

日本遺産を世界へアピール

JICA筑波センター外国人研修員が 安積疏水関連施設を視察します



ターゲット 6. a



ターゲット 17. 17

令和4年7月11日
郡山市文化スポーツ部
国際政策課
課長 石井 章浩
TEL：924-3711

SDGs ターゲット 6. a 「開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する」

SDGs ターゲット 17. 17 「効果的な公約、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」

独立行政法人国際協力機構（JICA）筑波センターにおいて、稲作技術を学ぶ外国人研修員が、研修の一環として、本市及び猪苗代町の安積疏水関連施設を視察します。

- 1 日時 7月14日(木) 午前10時～午後3時
- 2 行程 10:00 十六橋水門 → 11:00 上戸頭首工 → 11:45 猪苗代湖志田浜
→ 13:00 田子沼分水工 → 13:40 沼上発電所 → 14:20 磐梯熱海観光物産館
※交通事情等により時間が若干前後する場合があります。
- 3 参加者 外国人研修員 13名
JICA筑波センター職員 7名
安積疏水土地改良区職員、東京電力リニューアブルパワー(株)猪苗代営業所社員、
郡山市国際政策課職員



▲前回の視察研修（十六橋水門、上戸頭首工）の様子（2020年8月）

<安積疏水関連施設におけるJICA視察研修の受け入れについて>

開発途上国において、灌漑施設の管理手法や農村開発は重要なテーマであり、日本に学びに来る研修員にとって、「世界かんがい施設遺産」にも登録されている安積疏水は、その背景や仕組みから自国の発展に寄与する有意義な研修素材であることから、本市では、国際貢献の観点を踏まえて、2019年からJICA視察研修を積極的に受け入れており、今回で7回目となります。

また、視察施設の一部は、2016年に認定された日本遺産ストーリー「未来を拓いた『一本の水路』」の構成文化財となっていることから、今後のインバウンド誘致による観光促進についても期待できるものとなっています。